

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

- 1 開催日時 令和8年3月4日（水） 午後1時30分～3時30分
- 2 開催場所 美山育成苑 会議室
- 3 出席者 利用者 赤穂 尚範〔司法書士（後見人）〕
利用者家族 海老瀬 晶彦（保護者）
地域関係者 古屋 義美（元民生児童委員）
福祉知見者 寺尾 哲雄（学識経験者）
市町村担当 田川 麗子（南丹市相談支援専門員）
法人本部 藤木 恵（理事長）、橋本 雅寛（常務理事）
美山育成苑 梅原 正道（施設長）、内牧 裕幾（施設長代理）
小林 眞友美（援助部長）、木戸 芳典（事務長）
山崎 正則
- 4 開 会 理事長あいさつ、出席者自己紹介
- 5 会 議 会議は、別紙 次第に沿って育成苑職員が説明を行う。
～主な説明内容はつぎのとおり～

（1）地域連携推進会議について

厚生労働省の「地域連携推進会議の手引き」の2. 会議の目的・役割を引用し、説明を行った。

なお、手引き（資料を除く）を構成員全員に配付した。

（2）施設の紹介（資料は、育成苑が準備したものを使用。以下同じ）

① 施設の概要・沿革

施設の沿革と概要、法人の基本理念の説明を行った。

② 事業の内容

育成苑の基本方針と現在実施している「生活介護サービス」、「施設入所支援サービス」、「短期入所サービス」について説明を行った。

③ 現在の状況

現在入所（利用者73名）の男女構成、年齢構成、障害支援区分の状況等について説明を行った。

また、職員の職種別と正規・非正規の内訳について説明を行った。

（3）利用者の日常生活

平日・休日のサービススケジュールと利用者の過ごし方、行事・イベント、家族等との面会、外出・外泊の状況等について説明を行った。

（4）美山育成苑の運営状況

障害福祉サービスの報酬制度について、まず、基本報酬に加算・減算措置に地域区分単価を乗じて報酬額を算定する流れを説明した。

また、2024年度（令和6年度）報酬改定のポイントとして、処遇改善加算の一本化、医療連携の強化、強度行動障害支援の充実、就労支援の見直しについて説明を行った。

最後に、報酬請求の流れについて説明を行った。

(5) 防災対策

事業継続計画（BCP）について、BCPの説明と施設・利用者・職員を守る（前もって緊急事態に備えることで、施設運営や職員の雇用を維持すること）、緊急対応の正確性・スピードを上げる（緊急対応のスピードだけでなく、事業の正確性を向上させる）ことの説明を行った。

また、感染対策指針の基本的な考え方や、感染予防・再発防止対策及び集団感染事例発生時の適切な対応等の整備について説明を行った。

(6) 虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会の活動報告

虐待防止に関する指針及び身体拘束等の適正化のための指針により、基本的な考え方や定期的な開催状況等について説明をおこなった。

6 施設見学、利用者との面談

援助部長の説明で、育成苑施設の巡回見学を実施するとともに、利用者と和やかな面談を行った。

7 意見交換

(質疑①) ○ 地域貢献活動で、地元福祉団体に自動車の貸し出しを行っているが、どういう団体にしているのか。

- (応答)
- ・ 地元高齢者のサロンの活動で、送迎に10人乗りのワゴン車を利用してもらっている。
 - ・ 社会福祉協議会の呼びかけで、各サロンに地域の施設から町内での送迎で貸し出しをしてもらっている。
 - ・ 春の花見には、社協と施設から各1台出してもらっている。

(質疑②) ア 施設での食事は外部委託で、朝・昼・夕の3食委託しているのか。

イ 調理員の所属は、施設か委託先になるのか。

ウ 食事は作り置きなのか。

エ 利用者によって、塩味とかそしゃくが難しい等の問題があると思われるが、配慮されているのか。

(応答) ア 3食委託している。

イ 調理員は委託先の所属。

ウ ご飯は炊いて、味噌汁は沸かしておかずと盛りつけ、それを職員が配膳している。

エ・形態は利用者にあわせて、おかゆの利用者もある。管理栄養士が計画を立てて行っている。

・ 提供直前に職員がとろみ剤をかける利用者もある。

・ 粗刻みで、1cm角位に刻む場合もあり、多くの利用者に対して手を加えた提供になっている。

・ 定期的に血液検査をしている利用者もいて、それに応じて経腸栄養剤（ゼリータイプ）も提供している。

(質疑③) ○ 地域交流（小・中学、大学等）は、コロナの影響で出来なくなったのか。

施設を知ってもらう良い機会ではあるが、それは学校側か施設側の都合か。

- (応答)
- ・ コロナの影響は大きい。そこで受入等が止まった。
 - ・ 現在は受入をしないことではなく、介護体験を受け入れることにしているが、学生が当施設を選ばない状況にある。
 - ・ 中学校の職場体験では今年度予定していたが、中学校でインフルエンザが流行し、他の生徒が感染され実現しなかった。
 - ・ 利用者に脱衣行為のある人がいて、中学生を受け入れても良いのかとなったが、先方に話をしてそれでも来ていただけるか判断してもらうことにしている。
 - ・ 職員にとっても良い機会だと思っているので、今後も受入はしていきたい。
 - ・ 以前には短大生の実習生も受け入れ、宿泊施設も食事も提供していた。その後学生数も福祉系も減っており、時代の流れとなっている。
 - ・ 地域の民生児童委員も施設を訪問したいが、コロナ以降高齢者施設も含めて、受け入れが叶わなく制限されている。
 - ・ 利用者も外部の人との交流が出来ていなく、本日も大変喜んでいる人が多かった。

(質疑④) ○ 利用者の帰省に制限はないのか。

- (応答)
- ・ 帰省期間は設けていなく、家族の都合の良いときに面会も含めて受け入れている。
 - ・ 家族が高齢とか、血縁関係が薄らいできている。また、家族がなく後見人や保佐人の付いている利用者もある。

(質疑⑤) ○ 後見人が付いている利用者は多いのか。

- (応答)
- ・ 親族を除いた司法書士や弁護士等10人位で、あとは親族で兄弟姉妹が多くなってきている。

(質疑⑥) ○ 先ほど施設を見てもらったが、居室やトイレ等で臭い(尿臭・よだれ)等は気にならなかったか。

- (応答)
- ・ トイレを含めて臭いは気にならなかった。きれいに整備されていた。